

10/29SVCFシンポジウム

東京電力福島第一原発の事故から学ぶ —放射線被ばくに備えよう！—



吉田悦花氏

井出寿一氏

伊藤邦夫氏

竹岡健治氏

守田敏也氏

山田英雄氏

10月29日に千代田区永田町の星稜会館で、公益社団法人福島原発行動隊の主催により、SVCFシンポジウム「東京電力福島第一原発の事故から学ぶ-放射線被ばくに備えよう！-」を開催された。本号では、その内容を中心に掲載致す。なお、講演録、パネルディスカッションの収録集は後日配布予定とのこと。

講演の最初は福島原発行動隊前理事長の伊藤邦夫氏から、伊藤氏の推奨する被ばくの備え方についてのレクチャー。次に3.11当時は川内村総務課長であった井出寿一氏の講演。

井出氏は事故発生後すぐに、隣町富岡町から避難してきた町民約8,000人を受け入れ、その4日後には建屋の爆発により、自分たちも非難しなくてはならず不眠不休で村民の安全確保に勤しんだ経験を時系列で詳細に語り、村を出るときの口惜しさや複雑な思いには声を詰まらせていた。原発のある地域に長年住み、村役場の仕事に従事しながらベント、シーベルトなど原発関連の言葉を初めて聞かされ、事態を十分に把握できず、対策が後手後手にまわってしまったと悔やんでいた。そして最後に「小さな子どもが二人いる一家四人家族のお父さん、お母さんが交通事故で突然亡くなってしまった。残された幼い子どもがこれからどうやって生きていこうか、というのが今の川内村の現状なのです」と結んだ。

シンポジウムは前記の二人に加え、横浜市栄町で「放射線を測る会」を立ち上げ、測定を継続している竹岡健治氏、『内部被爆(岩波ブックレット)』の著者でジャーナリストの守田敏也氏、チェルノブイリ原発事故に詳しいロシア語医療通訳の

山田英雄氏によって行われた。

保育園、幼稚園各12園、小学校14校、公園86カ所の放射線量を2011年11月から毎月測定して「栄区の放射線マップ」を作成している竹岡氏からは、樹木(樺)の中には0.5マイクロシーベルトが検出された場所もあること、データは横浜市の土木課に提出していることなどが報告されたが、「土木課長は最近会いたがらないですね。でも私はしつこく測定を続けますよ」と苦笑い的一幕も。

現在もなおこの国に「原子力緊急事態宣言」が発令されている意味、内部被爆は無視し外部被爆しか評価していないICRB(国際放射線防護委員会)の問題点などを熱く語った守田氏。山田氏はチェルノブイリ事故では小児の甲状腺癌の多発がクローズアップされているが、問題なのは若者男女の乳癌、肺癌。これは甲状腺ばかりをフォローした結果ではないか、またチェルノブイリ法は制定されても現実に実施されているとは言えないと、現地での画像を提示しながら専門的な解説をされた。

終盤には井出氏から、3月16日には安定ヨウ素剤が役場に届いたことも発言され、しばらくヨウ素剤についての話し合いがあった。ヨウ素剤の使用も含め、各人が共通して確認されたことは、被ばくの可能性のある人の健康診断の継続、情報開示、そして原発に関する教育を今後徹底的に行う必要があることだった。なお、本シンポジウムの動画は、下記URLにアップされている。<https://youtu.be/h9Kfgyr4H3U>

(賛助会員・藤井みゆき)

当事者の声に触れ、実り多いシンポジウムでした。

「放射線被ばくに備えよう」東京電力福島第一原子力発電所の事故から学ぶ会への出席は、多くの学ぶ点がありながらも、原発行動隊員の出席が少なかったのが残念だった。その理由は別途分析されるべきことではあるが、動かない、いや、隊員が期待するようには「動けない行動隊」の現状を示していることは言うまでもない。ただ、そのことと、本シンポジウムの役割・価値は全く別のものであることははっきりさせておきたい。

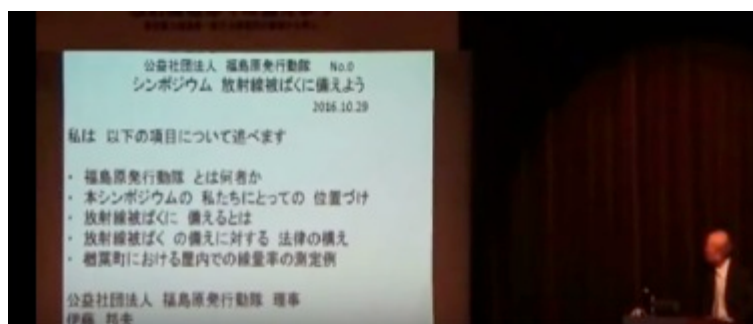
先ず、伊藤氏から、「福島原発事故の収束作業に、年寄ではだめですか」の声を上げて誕生したが、東電の拒否により実現に至らない現状が語られた。(加えて、楡葉町の放射線測定状況なども。)

次に、この日の会の意義は、「風光明媚な中山間地、のどかな田園風景」で営まれていた地域の暮らしが一変した川内村について、講演者・井出氏の故郷に対する想い、双葉郡、福島県の人々を思う気持ちを幾分かでも分かったことの大切さだと、自分は第一に挙げたい。津波～原発事故から激烈な一週間の出来事が、5年7か月の歳月が流れた今日も継続し、今後も長く苦闘が続くことの困難さを抱えた今、東電や県、国への批判ではなく、「全体の奉仕者」として、故郷再生・復興を願い、ひたむきに歩まれる氏なくしては、本日の会はなかったと思う。(もちろん、東電の対応や県・国の対応の不備は許されるものではない。)

その上で、2011年11月以降、横浜市栄区で地道に放射線測定を続けておられる竹岡氏から、継続測定の重要性を確認でき、また、我が国は「原子力緊急事態宣言」が出されたままであり、1ミリシーベルトは「安全値」ではなく、原発を使う上での「我慢値」であることも、守田氏のお話で確認できた。さらに、「甲状腺がんを中心に測定が続けられているが、青年層へのフォローが見過ごされている」現状と、「潜在がんがホルモンバランスの変化など、何かをきっかけに出てくる」現状があるので、長期にわたるフォロー態勢が必要なことを、山田氏からお示しいただいた。

以上の素晴らしい方々と、ファシリテーターの吉田氏や青田氏の的確な運営、会場の出席者すべてが一体となったシンポジウムの内容を鑑み、参加してよかったと自分は思う。

(行動隊員:福永吉延)



もっと元気に、前を向いていこう。

一か月前のシンポジウムを振り返って強く思うのは、その討議のことよりシンポジウムを主催した福島原発行動隊のいま置かれている状況です。もっと元気になるって欲しいです。

いつも当日参加だけで準備作業も何もしない者から申し上げるのも気がひけますが一筆する次第です。

二年前のシンポジウムにも参加しましたから、参加者のあまりの少なさに驚きました。一般の参加者の少なさもさることながら、肝心の行動隊メンバーもわずか。久々にお会いしようと思っていた安藤理事長もおられない。シンポジウム後の懇親会も結局パネリストの方々の方が多いのではと思う状況でした。

懇親会での会話で、シンポジウムのパネリストから「原発推進」を思わせる発言があったのは如何なものかとお話がありましたが、わたしはそれぞれの意見はあっても良いと思っています。行動隊は元々政治信条や原発への賛否を言わば伏せて行動をしようと賛同したものだと思っています。こうした議論をたたかわせるためのシンポジウムも必要でしょう。

ただそれは、議論のための議論ではなく、一重に行動隊が発足の初志にかなう活動をするのに役立つものであって欲しい

と思います。

わたしが行動隊に加わり、いまでもそのメンバーでいるのは、みなさんと一緒に福島に行って汗をかくのが好きだからです。草刈りでもモニタリングでも片付けでも良いと思っています。

どうやら行動隊は、看板に掲げた「行動」自体が難しく、実働メンバーも手薄になって苦境に立っているらしい。であればこそ、後ろ向きのじめじめした議論はほどほどに、前を向き、被災者/地を思い、福島に向いて汗を流すことで、行動隊を元気にしていきたいと切に願います。

シンポジウムの内容では特に元川内村総務課長様の当時の現場状況を資料を元に語られたのが想像以上の本当の現場の声を聞かせていただき非常に貴重なお話でした。また、別のパネリストの方がチェルノブイリに関連してウクライナとベラルーシの違いや体制・対応の違いを話して下さいたのですが時間的制約があったのが残念でした。

それぞれの資料をホームページに掲載されたりしたら良いのではとも思いました。

(行動隊員:山田次郎)



原発稼働が続く限りは、被ばく対策は必須。

シンポジウム終了直後の連絡会議に向けて「反省・報告」という短い文書を提出した。それよりも時間が経ち、当日の動画やパネリストがプレゼン用に作成してくださったPDFなどを観ていて「シンポを開催して良かった」と捉えている。

「良かった」の意味は二つある。一つはこのシンポジウムが福島原発行動隊の本年度の「研修・啓蒙事業」であり、市民の方々に現在の「原子力発電推進政策」が続く限り「放射線被ばくの備えよう」という課題から逃れられないことを明らかに出来たことである。

もう一つは、福島原発行動隊として本気で福島事故の「廃炉・収束」に関わろうとするならば、組織・運動の進め方を改善する時期に来ていることが明確になったことである。この点は前述した「原子力発電推進政策」をどう捉えるかという情勢分析の問題でもある。

言い過ぎかも知れないが「脱原発」を多くの国民が求めていると報道されているにも拘わらず、実際は「原子力発電推進政策」が勝っていて、必ずしも「脱原発」には向かっていない。

このような中で、「福島第1原発事故規模の再発」の危険性を指摘し、「放射線被ばくに備えよう」と訴えてきた。最初に述べた福島第1原発事故の「廃炉・収束」に関わろうとするなら

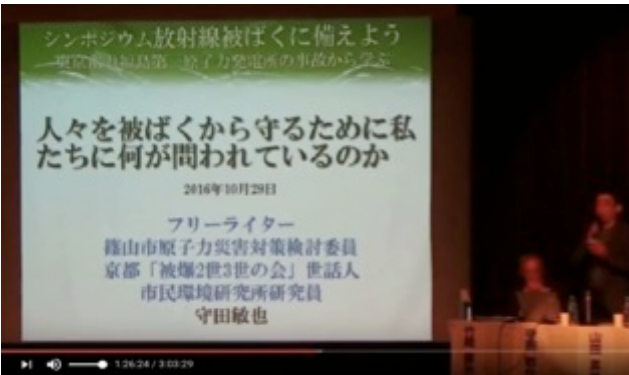
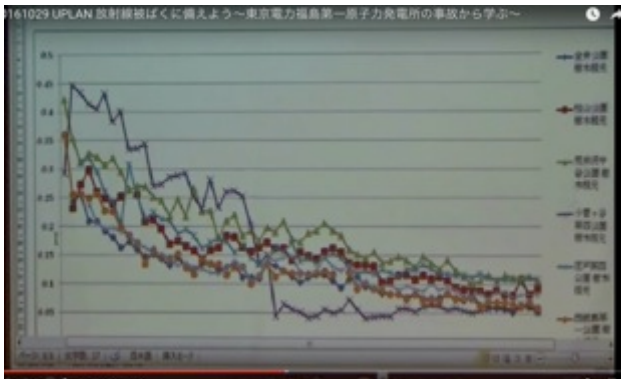
ならば、云々よりも福島原発行動隊の必要性は高まっていると捉え直している。

シンポジウムの内容は良かったと自負している。川内村の元総務課長の井出寿一さんは未だに原発事故に振り回されていることを明らかにされた。「川内村の再建には富岡町、大熊町の再建が不可欠なので環境省の一員として働いている」と話された。

パネリストの意見交換で、この井出さんを巡って「井出さんのような被害者を生まないためには脱原発すべき」と「原発が必要ならばその“危険性”を認識して対応すべき」と意見は分かれた。

「チェルノブイリ法」を巡っても「日本でも同様の法律を作る」と「法律が出来ても運用を誤っている(ウクライナなど)。現地の実態を良く知るべき」との発言も行われた。「原発」に対してパネリストが自由に意見交換できる場を提供できた。「行動隊」ならでのシンポジウムではなかったか…と捉えた。

さて、今後の「行動隊」だが現在の理事は来年の6月で任期を向かえる。それまでに60～65歳くらいの理事候補を自薦、他薦で探して“並行ラン”を行い、第3期行動隊の発足を目指したらどうであろうか。(行動隊員・理事:杉山隆保)



行動隊員の若返りを含め、今後のあり方を問うべき。

私の総括は、結論としては“行動隊員の参加がほとんどない福島原発行動隊の主催行事を、今後開催する事には意義が見出せない、福島原発行動隊として今後の活動の展望があると言えるのか？”という事です。

今回は“テーマが悪かった”(私はそうは思いませんが、事務局各位もテーマの意義は大いにあるとお考えだったと信じますが、Youtubeへの投稿動画の内容からもよい議論が行われたと思っております)、あるいは、“他の原因でそうなったとか、

福島原発行動隊(事務局や執行部という狭いボランティアな担務者を指すのではなく、自立した個人の集団としての福島原発行動隊総体)の本質的問題ではない”という総括もできるのかもしれませんが、そこあたり、何が問題か、問題の解決はできるのか?(福島原発行動隊=<どいですが、事務局や執行部ではありません=>にその力量があるのか?)といった観点で、行動隊員の中で議論が必要だと思います。

具体的な感想としては、色々反省点がありますが、まずは

シンポジウム担当者でやれるところはやって、また、少数ながら行動隊員有志によるボランティアな協力と支援があり大変助かったわけですが、いかんせん、行動隊員自体の参加が少なすぎる事態は行動隊の存続を根本的に考え直すべき時期に来ている事を明確に示していると思います。

原因の一つとして「人材育成(事務局部隊の若返りを含む)」が正しく組織的、計画的に行われず、電話連絡などの直接的な連絡などにより個別に行動隊員は何をなすべきかを訴え、実務者を増やす具体的な行動を起こすなどの作業がな

おざりにされ、結果的に今日の不活発な福島原発行動隊の活動状況を招いたと考えます。

あえて言えば執行部の能力不足とも言えますし、同時に行動隊員自体の熱意が冷め、熱意だけで事が進むと考えてきた事のツケが回ってきたと考えるべきでしょう。執行部も行動隊員も「福島原発行動隊の理念を実践する力量がない」状況に陥っている現実をリアルに見つめ、今後のあり方を問うべき時期に来ていると思います。

(行動隊員:麻生良二)



SVCFスケジュール

【11月のSVCF院内集会】

●テーマ:SVCFシンポジウムの今後の展開について

- ・10/29シンポジウムの総括
- ・今後の展開企画について

●日時:11月24日(木)11時-13時

●場所:参議院議員会館内会議室(地下1階・B102会議室)

本年度からスタートしたシンポジウム事業は、本紙でもご紹介したとおり、この10月29日を第1回として、次回より順次、開催場所を移して開催していく予定を立ててしました。

今後は、開催場所を移して順次開催していきたいと思しますので、本企画や運営にご協力ください。

【12月のSVCF院内集会】

●テーマ:原発労働者の体験談報告

今野寿美雄氏

●日時:12月15日(木)11時-13時

●場所:参議院議員会館内会議室(地下1階:B103会議室)

今野寿美雄氏は元・原発作業員。52歳。18歳から29年間

にわたり原発作業に携わり、過去にイチエフ、ニエフ、女川、東海、もんじゅで従事。その豊かな経験をもとにした実体験談を語って頂きます。

【SVCF連絡会議】

10月

●日時:20、27日の各木曜日。

●場所:神田淡路町のSVCF事務所

11月

●日時:3(休日)、10、17、24日の各木曜日、27(日曜日)

●場所:神田淡路町のSVCF事務所

※24日は、院内集会後、同じ参議院議員会館内会議室にて12月

●日時:1、8、15日(院内集会後)の各木曜日と23日(休日)。

●場所:神田淡路町のSVCF事務所

※上記日程については、事情により急遽変更も有り得ますので、お越しの際は事前にSVCF事務所までご連絡ください。

事務局からのお知らせ

公益社団法人福島原発行動隊の事務局は、右記マップの通り交通至便な場所に位置しています。事務局のメンバーは、毎週木曜日の11時-13時(※)に、ここで連絡会議を開催し、事務運営の確認や情報交換を行っています。連絡会議は、基本的にオープンで開催していますので、メンバー以外の方も参加できます。お近くにお越しの際は、是非ともご参加ください。

(※)院内集会と重なる場合は、会議室は参議院議員会館となります。

【事務局】

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル 1階A室

Tel:03-3255-5910 Mail:svcf-admin@svcf.jp

